

学会参加報告書

東京工業大学原子炉工学研究所博士後期課程3年竹下研究室中瀬正彦

日本原子力学会再処理・リプロセッシング部会による学生渡航費支援によって GLOBAL2013 で発表を行いましたので、ここに報告いたします。ご支援を戴き、ありがとうございました。

GLOBAL2013 International Nuclear Fuel Cycle Conference –Nuclear Energy at Cross Road-

日時；2013年9月29日～10月3日

場所；米国ユタ州ソルトレークシティ、ホテルリトルアメリカ

10月2日水曜日、午後1時50分～2h. Research and Processing Equipment

M. Nakase and K. Takeshita, “Continuous back extraction operation by a single liquid-liquid centrifugal extractor”

発表 アブストラクトを書いた時からかなり研究が進んでいたため、プロシーディングスでまとめた逆抽出挙動に加えてより研究全体の内容が把握できるように大きな枠組みの中で発表した。原稿をことさら作らずに自分の言葉で、かつ大きな声で発表することに心掛けた。質疑応答では ANL の研究者から油水分散挙動の解析に関する技術的な質問を、INL の研究者から本抽出器と他の抽出器との性能比較において、処理量の観点に関する質問を受けた。原理や運転条件の異なる複数の抽出器性能を比較することは非常に難しい。この部分は私の博士論文研究の中でもきちんと取り扱わなければならない部分であり、どのように分離度と処理量を同時に評価するか自分の考えを述べた。質疑応答を通じて原理的な部分に立ち返る必要性を本発表で再認識した。

聴講した発表 湿式の分離科学のセッションやガラス固化体のセッションを中心に聞いた。様々なレベルの発表があり、内容も基礎的なものから応用的まで様々で、まさに核燃料サイクルの国際会議だと思った。このような会議を通じ、再処理のみならずフロントエンド、炉内事象、最終処分など核燃料サイクルに関する様々な領域に関する知見を深めることの必要性と楽しさを再認識した。ただ、あまりにも同時に多数のセッションが開催されていたので直接聞けなかった発表もあったのが残念だ。

発表以外 発表以外にも懇親会やセッションの間などに沢山の研究者と話げできた。かつて別の会議知り合った研究者、IAEA インターンシップでお世話になった方々とも再会でき、初心に立ち返ることができた。懇親会の後も分野の近い研究者の方々と飲みに行くことも多く実り多い会議となった。

受賞 幸いにも Best Student Presentation Award (2nd place) も受賞できた。核燃料サイクルという多くの分野にまたがる学会での発表であったため、内容より発表の仕方を評価していただいたものと認識している。今後は研究内容で評価されるよう、真摯に研究に取り組んでいきたいと思う。



懇親会後の飲み会の様子



閉会式後に参加者らとともに